

令和5年度 佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【中学校】

<佐世保市の結果・改善策等について>

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第1学年・・・1, 975名

2 教科別領域別結果

教科	国語							数学				
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	全体
市平均正答率	57.0	45.4	82.4	46.6	42.0	59.3	54.1	69.9	72.4	52.9	48.8	61.8
全国平均正答率	62.3	48.9	85.4	53.4	48.4	62.1	59.2	73.0	76.1	55.4	56.1	65.8
全国比達成率%	91.5	92.8	96.5	87.3	86.8	95.5	91.4	95.8	95.1	95.5	87.0	93.9

3 課題と分析及び改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市		
		国		
		自校		
国語	○ 慣用句の意味を知り、正しく使っている。 ○ 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。			
	▲ 意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている。【1(3)】	11.1	19.8	・ 聞き取りの授業で、ねらいを達成するために、どのような情報を聞き取ることができればよいのかを確認しながら取り組むこと。情報の過不足の判断など、ねらいに即した判断をし、対応する活動を仕組んでいく。「何のための話すのか、聞くのか」学びのねらいを明確にして、目的意識をもって取り組ませる。
	■ 指定された長さ、二段落構成、読み取った内容及び自分の考えを明確にして書いている。【7】※数値は、それぞれの条件の平均	36.3		・ 主張、事実、理由付けを明確に区別する三角ロジックを使って意見を書く活動に取り組ませる。また、「資料からどのようなことが読み取れるか」と「自分はどうか考えるのか」ということを常に問いかけながら、物事を考える活動を仕組んでいく。
		43.1		
数学	○ 分数×分数の計算ができる。 ○ 比例の関係を、xとyを使って式に表すことができる。			
	▲ 円周の長さを求める式を選ぶことができること【9】	49.4	61.7	中学校1年生の「2章・文字と式」の中で、円の周の長さや円の面積を、円周率 π を用いて表現する場面がある。また、「5章・平面図形」のおうぎ形や「6章・立体図形」の円柱、円錐の体積や表面積等で必要な知識となる。それぞれの場面を中心に、「言葉」と「式」の両面で円の周の長さや面積の求め方をとらえさせ、公式の意味理解を重点において授業を行う。
	■ 百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶことができる。【16(2)】	53.0	63.0	・ 数量関係領域では、日常生活にそった内容を取り入れた授業展開を行い、その中で歩合や百分率を視覚的にとらえられるよう教材提示等を工夫した授業を行う。また、求め方や求めたものを説明することで、理解を深めるとともに、定期的に復習を行うことで定着を図る。 ・ グラフの読み取りでは、そのグラフの総数と割合から、その集団の特徴や数をとらえる必要があること等、グラフの留意点について確認する学習を行う。
		8.4	17.5	
▲ 2つの帯グラフを正しく読み取り、比較している。【21(2)】				

II 長崎県学力調査

1 国語・数学

(1) 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第2学年・・・1, 901名

(2) 教科別領域別結果

教科	国 語					数 学				
	知識及び技能	話す 聞く	書く	読む	全体	数と式	図形	関数	データの活用	全体
市平均正答率	62.2	67.6	57.5	44.3	58.3	52.3	50.7	55.6	48.7	51.9
県平均正答率	64.2	67.9	58.6	46.1	59.8	54.5	51.7	56.7	50.6	53.5
県比達成率%	96.9	99.6	98.1	96.1	97.5	96.0	98.1	98.1	96.2	97.0

(3) 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率	改 善 策 (例)
		市 県 自校	
国 語	○ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す ○ 各場面と登場人物の行動や情景等の描写とを結び付けて、内容を解釈する		
	▲ 登場人物の心情を捉える 【2三】 ※数値は2問の平均	44.6 47.1	心情の読み取りの学習は、何を読み取らせるのか意図をもって行うこと。文章のジャンルや発達段階に合わせて、学習指導要領の指導事項のどこに該当するのか、明確に意図をもち、授業を行うことが重要である。
	▲ その場面における登場人物の行動の理由を捉える 【2四】	51.7 54.9	その場面における登場人物の行動の理由を読み取る際、その場面の読み取りだけではなく、文章(作品)全体や複数場面を相互に結び付けて、内容理解をすることが必要となってくる。全体を読んで捉えることができる課題を設定し、その課題解決のために適切な言語活動を設定するなど工夫する。
	■ 資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに書き加える 【3三(2)】	37.3 37.8	資料から読み取った情報をもとに、条件に沿って記述するために、まず資料の関連性及び内容を正しく理解すること、次に条件に合った解答ができるよう、問いの内容を精査すること、それを受けて記述を行い、推敲まで行うことが大切である。生徒がどの段階でつまづいているのかを明らかにして、授業の焦点化を図る。
	◎ 関数の領域で、全般的に改善傾向がある。(比例の表から式化、反比例のxとyの関係理解、グラフからの情報の読み取り) ○ 数と式の領域の中で、簡単な四則計算、及び問題場面における考察の対象を明確にとらえることができる。		
	数 学	▲ 数量の間の関係を等式で表すことができる。 【2(2)】	56.5 64.7
▲ ヒストグラムから最頻値を求めることができる。 【5(2)】		44.5 49.9	平均値、中央値、最頻値の代表値や、範囲、階級値などの概念、特徴の定着が必要である。その場合にも、授業で用いる資料として、身近な題材を用いることで生徒も考えやすくなるとともに、その値にどのようなよさがあるのか、発見させる授業を取り入れる。
▲ 条件を基に、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 【7(2)】		27.3 27.0	基本的な作図の意味や特徴を比較しながら、知識を定着させる必要である。さらに、作図の課題をはじめ、図形領域全般において、発展的な学習や課題解決を図る学習をし、グループ学習やICTの活用、板書の工夫等により、数学的な表現を用いて説明する力を高める授業を行う。

Ⅲ 考察

【国語】

- 県学力調査（第2学年）では、県比達成率が昨年度から2%上昇している。特に「話す・聞く」が+4.1%、「書く」が+3.9%、「読む」が+2.4%となっており、全領域で改善傾向が見られた。各学校で授業改善に取り組んでいる成果が表れている。その一方で、市学力調査（第1学年）では、全国比達成率が昨年度から2.1%下がっている。「話すこと・聞くこと」が-8.2%、「書くこと」が-1.7%、「読むこと」が+0.8%となっており、ほとんどの領域が課題となっている。各領域ごとの課題を意識し、各学校において取組を進めていく必要がある。

- 読み取った情報をもとに、条件に沿って記述することは年々上達している。各学校で記述問題に重点的に取り組んでいる成果が表れている。また、それぞれの設問における無答率についても分析をすることで、各学校における生徒の実態がより把握できる。無答率については、時間が不足、全く分からない、もしくは解きたくないということが考えられる。課題に主体的に取り組むことができる生徒を育成するためにも、「何のためにこの授業を仕組むのか」という「目的意識」を教師が強く持つとともに、その意識を子どもたちとも共有することが重要となってくる。子どもたちが自分の現状を理解したうえで、その現状をどのように克服していくのか、どのように学習していけば課題が解消されるのかを指し示す必要がある。そのためにも、「単元計画」をしっかり立て、「何を」「何のために」「どのように」学ぶのかを明確にすることで、主体的に学べる授業、身に付けたい力がぶれない授業を進めることができる。

【数学】

- 県学力調査では、県比達成率97.0%（昨年度93.7%）で、大きな改善が見られた。各学校において、本市及び各学校の課題を意識し、授業改善を進めている成果が表れていると思われる。今後も、単元の目標やその題材を活用する場面、また他の単元との関連性をしっかりと見据えながら、生徒にとってつながりのある継続した学習活動となるよう、1時間1時間の授業の構想立てが、学力のさらなる向上のためには重要である。
しかし、設問の形式として、長い問題文や様々な資料から必要なことを読み取ること、解法について説明することへの県学力調査での正答率が、20%台～30%台と、これまで同様に低い傾向が続いている。この改善のためには、普段の授業作りの視点・手立てとして、県が示している読解力育成プランにある、「図や表、グラフから読み取ったことを言葉や文章で表現する活動」や「言葉の定義や意味を正しくおさえたうえで、考えたり話し合ったりする活動」、「根拠を明確にして自分の考えを述べる活動」などを、各単元で計画的に取り入れていくことが大切である。
市学力調査では、特に「データの活用」で、全国平均を大きく下回っている。「データの活用」の領域では、小学校での割合の学習や、中学校でのグラフや代表値等の基礎・基本の定着が必要である。そのためにも、具体的な日常の課題と照らし合わせながら、データ解析の良さを体験できるよう、そのプロセスを経験させることが必要である。また、ICTを活用してグラフ化するなど、視覚的にも特徴を捉えやすくすることも有用である。